

創造工学プログラムの科目と学習・教育目標との対応表(建築学科)・・・申請学士領域(建築学)

◎はプログラム重要科目、○①②③④⑤はプログラム関連科目

Table with columns for subject (授業科目), required status (必修), and achievement levels (4, 5, 1, 2, (1), (2), (1), (2), (1), (2), (3), (1), (2), (1), (2), (3), (1)). Rows include subjects like Japanese Literature, Environment, Life Science, Health, English, Law, Architecture, and various engineering courses.

(創造工学プログラムの学習・教育目標と達成度評価をA-E項目で示し、コース別の学習・教育目標と達成度評価をFで示す。)

創造工学プログラムの学習・教育目標と達成度評価

A. 科学技術や情報を利用してデザインし創造することに喜びを知り、たゆまず努力する技術者を育成する。

(1)基礎工学(設計システム, 情報論理, 材料バイオ, 力学, 社会技術)の科目を修得している。

→【表1の基礎工学の5つのプログラム科目群で各群から1科目以上計6科目以上の単位を修得すること。】

表1. 基礎工学のプログラム科目群と科目名(◎は重要科目)

Table with 5 groups of subjects: ①設計システム系, ②情報論理系, ③材料バイオ系, ④力学系, ⑤社会技術系. Each group lists specific subjects and their status (e.g., ◎).

→【専攻科専門共通科目から18単位以上を修得すること。】

(2)PBL(Problem-based Learning)の経験から創造の喜びを修得している。

→【プログラム重要科目である卒業研究、創造工学演習Iを修得すること。】

B. 問題を発見・提起し、修得した技術に関する知識や理論によって解析し、解決までできる技術者を育成する。

(1)学士の学位を取得できる専門工学の知識と能力を有する。

→【表B(1)のプログラム関連科目から39単位以上を修得すること。】

→【専攻科専門展開科目から37単位以上を修得すること。】

(2)数学(情報処理・物理)による理論的解析能力がある。

→【表B(2)のプログラム関連科目から2単位以上を修得すること。】

C. 国際社会を多面的に考えられる教養と語学力を持ち、社会や自然環境に配慮できる技術者を育成する。

(1)国際社会を多面的に考えることができる。

→【表C(1)のプログラム重要科目・関連科目から12単位以上を修得すること。】

(2)外国語によるコミュニケーション能力がある。

→【表C(2)のプログラム重要科目を修得すること。】

※【C(2)の総合的評価】
総合英語力到達度試験に合格すること。ただし、TOEIC400点相当、英検2級、工業英検3級取得のいずれかをもちて代えることができる。

(3)技術者倫理を修得している。

→【表C(3)のプログラム重要科目を修得すること。】

※【C(3),D(2)の総合的評価】
特別研究関連分野に関する技術者倫理/環境関連のテーマについてレポートを提出する。

D. 実践的な体験をとおして、地域の産業や社会が抱える課題に積極的に対処できる技術者を育成する。

(1)地域企業などでのインターンシップをとおして、実務上の問題点と解決法の現状を体得している。

→【プログラム重要科目であるインターンシップを修得すること。】

(2)実務上の問題点として、いろいろな環境技術について検討できる。

→【プログラム重要科目である環境技術を修得すること】

E. チームプロジェクト等を遂行するに必要な計画性をそなえ、論理的な記述・発表ができる技術者を育成する。

(1)日本語による論理的な記述、コミュニケーションができる。

→【表E(1)のプログラム重要科目を修得すること。】

(2)地道に行った研究成果を口頭発表できる。

→【表E(2)のプログラム重要科目を修得すること。】

※【E(1),E(2)の総合的評価】
特別研究の成果について、学会等で外部発表を行うこと。

(3)与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめることができる。

→【プログラム重要科目である創造工学演習IIを修得すること。】

コース別の学習・教育目標と達成度評価

F1. 複合工学修得コースの学習・教育目標
いくつかの工学の知識を修得し、幅広い考察ができる技術者を育成する。

(1)申請学士領域以外の工学の知識を修得し、幅広い考察ができる。

→【専攻科におけるF(1)のプログラム科目群の中から、計6単位以上を修得すること。表2にそれぞれの科目名を示す。】

表2. 専門共通・展開科目群の科目名

Table with 2 columns: 専門共通科目 (Industrial Design, Applied Concrete Engineering, Water Engineering, Environmental Engineering), 専門展開科目 (Ceramic Materials Engineering, Environmental Engineering).

F2. 専門工学探究コースの学習・教育目標
専門工学を探究し、深い考察ができる技術者を育成する。

(1)申請学士領域の工学を探究し、深い考察ができる。

→【学士を取得する専門工学における専攻科のプログラム関連科目(表B(1))から12単位以上を修得すること。】

(備考)
・1年次の総修得単位数が30単位に満たない者は、2年次相当の創造工学演習IIを履修できない。
・複合工学修得コースにおいて、1年次に創造工学プログラムの学習・教育目標C(2)の総合的評価を満たさない者は、2年次相当の創造工学演習IIを履修できない。